

くすりと健康のはなし

薬包紙

第126回

会長 計良雅之
瑞浪薬剤師会

子宮頸がんとは、子宮の出口部分にできるがんです。日本では毎年約1万1千人の女性が発症し、約2千9百人の女性が亡くなっています。20歳代から患者数が増えるため、妊娠・出産前に治療で子宮を失う可能性があり、また、子どもを残して亡くなるケースもあることから、別名「マザーキラー」ともいわれています。

子宮頸がんの原因のほとんどは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染です。HPVは性的接触のある女性であれば、50%以上が生涯で一度は感染するとされているほど一般的なウイルスです。ほとんどは自然に消えるものの、数年から十数年かけてがんへと進行していく場合があります。

そんなHPVへの感染を防ぐのが子宮頸がん（HPV）予防ワクチンですが、10年間ワクチン接種は停滞していました。注射時疼痛の衝撃的な映像がTVを通して流れたせいです。心ある方が安心、安全といっても遅々として進みませんでした。

2018年、娘がワクチンを接種したときの話です。夏休みを利用してイギリスに旅行することになっていたタイミングでした。保健所に接種権をもらいに行くと、まだ2桁の配布にも

子宮頸がんワクチン、正しく知っていますか？

なっていないません。つまり、誰も接種していない。長女が友人数人に確認しても同様の状況で、「なぜ私だけ」と言って打たせるのに苦労しました。

ワクチンの効果が明らかになったとして、厚労省は今年4月、接種の積極的な呼びかけを再開しました。さらに今月には、9種類の遺伝子型に対応した9個ワクチンを、来年度の早期に定期接種とする方針を明らかにしました。

HPVの遺伝子型は200種類以上あり、日本では現在、2価と4価の2種類のHPVワクチンが公費で受けられます。6〜7割の感染を防ぐ2価や4価に対し、9個ワクチンは8〜9割と、より高い感染予防効果が期待できるそうです。

接種後の主な副反応は発熱、接種した部位の痛みや腫れ、注射による痛み、恐怖、興奮などをきっかけとした失神など。副反応の報告頻度について、9個のワクチンを4価と比較したところ、接種した部位の痛みなど、症状が多いものもありますが、頭痛などの全身症状は同程度とのこと。有効性や副反応が起こるリスクなど、正しい情報を十分に知ったうえで、接種をご検討ください。